



紀平真理子のオランダ通信

第10回

なぜ日本人は Made in Japanに こだわるのか？(3・最終回)

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペインラテンアメリカ学科卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてにおいて実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

ヒアリングと考察から、日本人が国産を好む理由が少し見えてきた。本誌の先月号の特集で紹介されていた久松達央氏の著書『キレイゴトぬきの農業論』の中で有機農法と慣行農法に関する説明がある。そこには『「安全」と「安心」は異なる』とする一文があった。慣行農法でも「安全」は保証されているが、消費者は「安心」ということで有機農法を選ぶ。国産品と輸入品に同じような説明が可能だ。日本人が国産にこだわる理由は、「安全」だからではなく、「安心」だからだ。輸入されている時点で「安全」は保証されている(べきである)にもかかわらず、「安心感」から国産品を選択している。もし仮に安全でない輸入品が日本市場に流通しているのであれば、一刻も早く解決しなくてはならない問題である。日本人でも若い世代では、国産品(生食用)と輸入品(調理用)を使い分けていたり、輸入品を購入することもあるという人もいる。ドライでシンプルに考え、輸入品の「安全性」と価格格差によって輸入品を



新発売の糖度が高いミニトマト。通常のものより3割ほど値段が高い。



外食産業展示会で国産、外国産の垣根なく、野菜を展示し、来場者の目を引いていた。

また、多くの人が回答した「国産品はおいしい」という点については、国産品は日本人好みの味に品種改良されているからだろう。日本に一時帰国した際に感じたのだが、日本の野菜や果物はとても甘い。軟らかいものを好む人も多いように思われる。日本在住時、筆者も甘くて軟らかい野菜が好きだった。しかし、郷に入れば郷に従えで、近ごろは酸っぱいものは酸っぱく、苦いものは苦く、硬いものは硬く食べることにおいしさにも気づいた。

もちろん、国産品を選ぶことは国のためにも良いことには間違いないのだが、ひとつ気になった点がある。それは、日本人が国産品を選択する理由がほぼ同じだったことだ。それに対して、オランダ人や外国人の回答は年齢や立場、収入レベル、個人

の考え方によって多様だった。この日本人の回答結果は今までの政策やメディア戦略で何らかのかたちで私たちに国産品に関する価値観が刷り込まれていることにより生み出されたのか、もともと日本では論理的に考えるより印象やイメージで物事を見て、他と同調することが善とされる文化のために起こったものかは定かではない。しかし現在、食品偽装問題や冷凍食品農薬残留問題など、輸入品と国産品双方への信頼性が疑問視されているなか、今後はやみくもに「すべての国産品＝安心」と捉えるのではなく、目や舌、鼻を養って各々が自分で判断し、そして「なぜ国産品を選択するのか」「なぜこの農作物を選ぶのか」という点を独自の考えと論理を持って説明できるような社会になっていくことを願いたい。